

日露戦争の勝利とアジアの覚醒

日露戦争における日本の勝利、これはかつてない大きな影響を世界に与えました。コロンブス以来四百年間、白人の侵略戦争や侵略政策に対して勝ったことのない有色人種が、初めての勝利を得たのです。ことにバルチック艦隊四十隻を、三隻を残して全部撃沈し拿捕したパーフェクトの戦勝は世界戦史にかつてない、ネルソン以上

の快勝として、東郷平八郎元帥の武勲は今日なお、米・英・仏の教科書に写真入りで掲載されています。しかるに日本の教科書は、四年程前の学習指導要領の改正で、東郷元帥の名前だけが、国旗「日の丸」と共に小さく載るようになったのですが、それまでは全く教えられないままでした。

戦勝国の日本に、留学生として来日した中国の青年は、一万人以上と言われています。その青年らを集結させて、孫文は「中国革命同盟会」を東京で結成します。この同盟会が核となって、ついに一九一一年辛亥革命を成功せしめるのです。

ベトナムの革命家ファン・ボイチュウは、青年王子クオン・デ侯を会長に「ベトナム光復会」を結成します。彼らは、戦勝した日本に、軍事支援要請のために来日しますが、犬養・頭山・大隈ら日本のアジア主義者は、ベトナム青年の教育が先決であるとして、革命青年の養成を説得します。当時ベトナム独立運動に挺身する二〇〇余名の青年を、密出国させ日本に留学させるのです。これを「東遊（トンスイ）運動」と言います。

フィリピンではアギナルドとリカルテ將軍が独立運動に立ち上がりました。日本から六名の義勇軍がこの独立戦争に参加しています。また独立支援のため日本の廢戦器を満載した船「布引丸」が残念なことに上海沖で台風 に遭遇して沈没してしまっています。

インドでは総督ハーディング卿暗殺事件が起き、その首謀者であるビハリー・ボースとクプタ青年が日本に亡命してきます。後のインド首相ネルは「私は十六歳であった。私がインド独立とアジア解放のため一身を捧げる決意をしたのは、この時（日本勝利の時）である。」とその自叙伝に述べています。

ビルマでは傑僧オッタマ僧正が、日本がなぜ勝利したかを探究するため、来日して全国を巡行し、その得た結論を『日本』という著書に集約しました。この著書が、独立を志向するビルマ青年のバイブルとなり、やがてタキン党が結成されます。後年タキン党の青年志士三十人が、密出国して海南島や台湾で日本式軍事訓練を受け、大東亜戦争を日本軍と共に戦い、ついに独立を果たすのです。その指導者が有名なオン・サン（アウンサンとも呼称）です。現在のスーチー女史はこのオン・サンの娘です。

インドネシアもイスラム教徒が団結して「ブディ・ウトモ（尊い努力の意味）運動」を起こします。一九〇八年、日露戦争三年後のことです。しかし、オランダの弾圧は厳しく、啓蒙運動に終わりました。

遠くフィンランドではバルチック艦隊が全滅したことにより、ロシアに奪われていた失地（領土）を回復します。それを記念して、東郷元帥を名前とラベルにしたビールが愛用されており、五月二十七日の海軍記念日には子供たちが、日の丸の旗を掲げて日本大使館に表敬に来るそうです。

トルコのイスタンブールには「乃木通り」という名の通りがあります。エジプトでは『日本の娘さん』という詩が今なお市民に愛唱されているそうです。昭和五十二年にエジプトのサダト大統領を訪問した時、大統領は私どもにこう言われました。「私は近く日本を訪問するが、その時は真先に明治神宮を参拝するつもりだ。今日エジプトが独立し、このような繁栄をきたしたのもその根源をたどれば、明治天皇様の率いる日本軍が、白人帝国主義のチャンピオンたるロシア帝国を敗ったことに起因する。エジプトで今なお愛唱されている『日本の娘さん』という歌は、日露戦争に従軍看護婦として出征する日本の女性を讃えた詩なのです。」と。こう言われて驚いたことがあります。昨年日本を訪れたガリ国連事務総長が、あの多忙な時間を割いて東郷神社に参拝したと聞いて私はなるほどと思いました。彼はサダト大統領と同じエジプト人なのです。

日露戦争における日本の勝利は、岡倉天心のいう「アジアの覚醒（めざめ）」であり、また大川周明博士の言う「有色人種が初めて明るく太陽を仰いだ日」であったのです。だがその全世界を震撼させた輝かしい勝利が、実は皮肉にも大東亜戦争（白人のいう太平洋戦争）の遠因となるのです。